



# 源氏るまん 2023

第33回紫式部文学賞・紫式部市民文化賞  
受賞作品発表

## 《紫式部文学賞 資料》

令和5年10月5日（木）

宇治市・宇治市教育委員会

# 第33回紫式部文学賞受賞作品

## 『イコ トラベリング 1948-』

著 者： 角野 栄子 (かどの えいこ)

発 行： 令和4年9月28日

出版社： 株式会社KADOKAWA

## 著者略歴

東京・深川生まれ。神奈川・鎌倉市在住。大学卒業後、出版社勤務を経てブラジルに2年間滞在。その体験をもとに描いた『ルイジンニョ少年 ブラジルをたずねて』で、1970年作家デビュー。

代表作『魔女の宅急便』は舞台化・アニメーション・実写映画化され、野間児童文芸賞、小学館文学賞等受賞多数。その他『アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけ』シリーズ、『ズボン船長さんの話』、『イコ トラベリング1948-』等作品多数。

2018年に児童文学の「小さなノーベル賞」といわれる国際アンデルセン賞作家賞を受賞。

2023年に「魔法の文学館（江戸川区角野栄子児童文学館）」が開館予定。

## 作品紹介と講評

選考委員長 鈴木 貞美

童話作家・翻訳者として国際的に活躍してきた著者の若き日の自叙伝。第二次世界大戦後、東京の下町で育った少女（愛称・イコ）が大学を卒業し、海外の書籍を扱う書店に就職、ブラジルに旅発つまでが軽やかなタッチで描かれてゆく。

連合軍の占領下、自由に目覚めてゆく少女時代。中学で英語を習いはじめて、現在進行形に出会った驚きが全編に弾む。

自分から進むこと、心が惹かれたら。文化の先端をゆく街に憧れ、親に許される時間内で行ってみる。ちょっとした冒険の重なりが彼女の行く先ぎきの扉を開ける。ワンダー・ランドに行くように。

アルバイト先の古書店でまかされたショウウインドの飾りつけの仕事から、就職口が開く。中学、高校で仲良くなった友人たちには、降ってわいたように、アメリカにゆく道がひらける。自分には、日本人の移民の国、ブラジルが待っていた。

この若き日の自叙伝は、太平洋をサンパウロへ向かう船上の場面で閉じる。読み終わって、もう一度ページを開いたら、そこにはなんと、その三年後、大西洋をリオデジャネイロからスペインに向かう船上で、心を弾ませている彼女がいた。

## 作品紹介と講評

選考委員 村田 喜代子

「紫式部文学賞」始まって以来、異色の作品の受賞だろう。表紙をひと目見て驚いた。漫画家・今日マチ子の描く、赤い服を着て旅行カバンを提げた少女の颯爽とした姿。作者の角野栄子は『魔女の宅急便』で知られた児童文学作家だ。日本が戦争に敗れて三年目、作者の投影とおぼしきイコが十三歳の齢から、この少女小説は始まる。先年まで使用禁止だった敵国語がペラペラの中学教師。ずるい！ ずるい！ と言いつつ自分たちも占領国アメリカに憧れ、イコは「キャロル」、女友達は「クララ」男友達は「チャールズ」と呼び合って喜んだ。こんな開けっぴろげの戦後史は読んだことがない。主人公が少女で、そしてこの性格、独立精神ゆえにこそ、二十二歳で単身ブラジルへ出奔するラストまで、一気に読了させられた。特攻の若者を死なせ、原爆を浴びた敗戦国の苦さは、ただ明るく書けるわけではない。その題材を息も切らさず、老女の尻尾を隠して軽快に書きおおせた。愚痴なし、懺悔なし、抜き手を切って戦後史を泳ぎ抜いた角野栄子、いや……イコだった。

## 受賞の言葉

角野 栄子

この度は「紫式部文学賞」にお選びいただきまして、ありがとうございます。心から感謝申し上げます。

思いがけない受賞のお知らせに、はじめは戸惑い、畏れ多い気持ちで一杯でした。でも、紫式部の「めぐりあひて みしやそれとも わかぬまに……」という歌が幼少期の記憶から浮かびあがってくると、懐かしさとともに喜びがこみあげてきました。お正月、家族とのかかるた取りでは、「むすめふさほせ」を逃してはならじと、真剣！ 遊びに夢中になりながら、和歌の言葉の響きにうっとりとしたものです。

歴代の受賞者を拝見しますと、私は飛び抜けて高齢です。また私は紫式部のようなラブストーリーも書いておりません。多くは子どもたちのための本ですが、物語を楽しんだ子どもたちが、大人への橋を渡ってからも、読書を喜びとしてほしい。そんな願いを込めて、できる限り書き続けてまいりたいと思っております。

## 《第33回 紫式部文学賞 推薦要項》

### 1. 趣旨

「紫式部文学賞」は、伝統ある日本女性文学の継承と発展に寄与するとともに、市民文化の向上を目的としています。

※宇治市では、「源氏物語」最後の十帖の舞台となっていることから、源氏物語をテーマにしたまちづくりを推進しています。宇治には、世界文化遺産に登録されている平等院や宇治上神社をはじめ、歴史・文化遺産が多く存在します。また、宇治川を中心とした趣ある自然景観は、万葉集や平家物語など多くの文学に登場します。

### 2. 主催

宇治市・宇治市教育委員会

### 3. 作品のジャンル

小説、戯曲、評論、随筆、詩、歌句、翻訳及びノンフィクション等の文学作品  
(ただし、詩及び歌句については、ある程度の作品を収録した「集」の体裁をとるものとする。)

### 4. 作品の要件

- ①作者が女性であること。
- ②令和4年1月1日から令和4年12月31日までに刊行された作品(単行本)であること。
- ③日本語の作品であること。

### 5. 作品の推薦

- ①市内に在住、在勤、在学する市民からの推薦(公募)
- ②全国の作家、文芸評論家、出版社及び新聞社等からの推薦(非公募)

### 6. 推薦受付期間

令和5年2月1日(水)から令和5年2月28日(火)まで

### 7. 受賞作品発表・贈呈式(予定)

- ①受賞作品発表:令和5年10月
- ②贈呈式:令和5年11月

### 8. 受賞作品及び賞

- ①受賞作品は1点。(ただし、当賞にふさわしい作品がない場合には該当なしとし、優劣をつけがたい作品が複数ある場合については、2作品を限度に増やすことができることとする。)
- ②正賞(クリスタル像)及び副賞(100万円)

### 9. 選考委員(50音順・敬称略)

川上 弘美 : 作家  
鈴木 貞美 : 文芸評論家、国際日本文化研究センター名誉教授  
竹田 青嗣 : 文芸評論家、哲学者、大学院大学至善館教授、早稲田大学名誉教授  
平田 俊子 : 詩人  
村田 喜代子 : 作家

### 10. 推薦受付・問合わせ先

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市文化スポーツ課 文化係  
電話:0774-20-8724(直通) / FAX:0774-20-8977  
E-mail:bunkasportska@city.uji.kyoto.jp(問合わせのみ)

## 《紫式部文学賞受賞作品一覧》

開催回	受賞作品	発行者	受賞者	推薦作品数
第1回	『式子内親王伝一面影びとは法然一』	朝日新聞社	石丸 晶子	34 作品
第2回	『きらきらひかる』	新潮社	江國 香織	57 作品
第3回	『十六夜橋』	径書房	石牟礼 道子	70 作品
第4回	『淀川にちかい町から』	講談社	岩阪 恵子	51 作品
第5回	『アムリタ』	ベネッセコーポレーション	吉本 ばなな	57 作品
第6回	『夫の始末』	講談社	田中 澄江	62 作品
第7回	『蟹女』	文藝春秋	村田 喜代子	54 作品
第8回	『齋藤史全歌集』	大和書房	齋藤 史	59 作品
第9回	『神様』	中央公論新社	川上 弘美	68 作品
第10回	『葉子の京』	講談社	三枝 和子	58 作品
第11回	『釋迢空ノート』	岩波書店	富岡 多恵子	55 作品
第12回	『歩く』	青磁社	河野 裕子	52 作品
第13回	『浦安うた日記』	作品社	大庭 みな子	60 作品
第14回	『愛する源氏物語』	文藝春秋	俵 万智	52 作品
第15回	『ナラ・レポート』	文藝春秋	津島 佑子	49 作品
第16回	『沼地のある森を抜けて』	新潮社	梨木 香歩	52 作品
第17回	『歌説話の世界』	講談社	馬場 あき子	52 作品
第18回	『とげ抜き 新巢鴨地蔵縁起』	講談社	伊藤 比呂美	53 作品
第19回	『女神記』	角川書店	桐野 夏生	50 作品
第20回	『ヘヴン』	講談社	川上 未映子	51 作品
第21回	『尼僧とキューピッドの弓』	講談社	多和田 葉子	59 作品
第22回	『評伝 野上彌生子ー迷路を抜けて森へ』	新潮社	岩橋 邦枝	66 作品
第23回	『東京プリズン』	河出書房新社	赤坂 真理	62 作品
第24回	『『青鞥』の冒険 女が集まって雑誌をつくるということ』	平凡社	森 まゆみ	59 作品
第25回	『晩鐘』	文藝春秋	佐藤 愛子	61 作品
第26回	『戯れ言の自由』	思潮社	平田 俊子	69 作品
第27回	『浮遊霊ブラジル』	文藝春秋	津村 記久子	58 作品
第28回	『えびすとれー』	本阿弥書店	水原 紫苑	61 作品
第29回	『パンと野いちご 戦火のセルビア、食物の記憶』	勁草書房	山崎 佳代子	67 作品
第30回	『夢見る帝国図書館』	文藝春秋	中島 京子	64 作品
第31回	『組曲 わすれこうじ』	新潮社	黒田 夏子	55 作品
第32回	『夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアに行く』	イーストプレイス	奈倉 有里	58 作品
第33回	『イコ トラベリング 1948ー』	KADOKAWA	角野 栄子	69 作品



## 《第1回～第33回「紫式部文学賞」推薦状況》

### ■推薦作品数

ジャンル	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
小説	22	29	34	23	28	33	30	27	28	24	25	25	32	23	28
随筆	3	6	8	7	12	9	9	7	12	13	8	6	8	8	1
評論・評伝・研究	2	8	9	7	4	6	8	8	6	6	6	5	4	8	4
詩集・歌集・句集	4	11	9	7	10	10	7	16	14	10	12	14	15	9	8
ノンフィクション	2	3	10	6	3	4	0	1	4	3	2	1	0	1	3
翻訳・その他	1	0	0	1	0	0	0	0	4	2	2	1	1	3	5
合計	34	57	70	51	57	62	54	59	68	58	55	52	60	52	49

ジャンル	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回
小説	27	32	30	24	24	35	31	32	35	36	37	37	36	32	33
随筆	5	3	3	7	5	6	3	3	5	4	2	3	3	8	9
評論・評伝・研究	9	5	8	6	7	5	15	13	9	7	10	6	4	5	5
詩集・歌集・句集	9	12	11	10	11	11	11	11	9	8	13	12	15	16	11
ノンフィクション	2	0	1	0	2	1	5	2	0	5	4	0	1	3	4
翻訳・その他	0	0	0	3	2	1	1	1	1	1	3	0	2	3	2
合計	52	52	53	50	51	59	66	62	59	61	69	58	61	67	64

ジャンル	第31回	第32回	第33回
小説	30	28	38
随筆	3	9	8
評論・評伝・研究	7	4	4
詩集・歌集・句集	10	14	13
ノンフィクション	3	1	2
翻訳・その他	2	2	4
合計	55	58	69

## 《第1回～第33回「紫式部文学賞」推薦状況》

### ■推薦回答件数

区分	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回		第11回		第12回		第13回		第14回		第15回	
	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答
作家	72	4	141	33	142	14	140	32	129	17	166	27	162	29	163	25	163	24	161	21	155	26	154	18	152	20	154	15	153	15
文芸評論家	30	9	49	22	53	17	52	29	49	18	53	15	52	17	51	19	51	18	49	12	48	15	46	8	48	18	48	10	50	9
選考委員等	10	2	10	2	10	1	10	1	10	1	10	2	10	0	10	3	10	2	10	2	10	1	10	0	9	1	10	0	10	0
出版社	42	20	88	22	99	35	98	28	97	32	99	37	100	24	103	31	106	34	105	31	105	26	105	35	108	34	113	29	110	23
新聞社	40	2	40	5	40	3	40	0	39	2	40	0	40	2	45	4	44	3	44	3	44	1	45	3	45	4	45	5	45	4
市民推薦人	10	9	9	9	10	10	6	5	3	3	3	3	2	1	8	8	7	7	3	3	5	5	6	6	4	4	4	4	10	8
合計	204	46	337	93	354	80	346	95	327	73	371	84	366	73	380	90	381	88	372	72	367	74	366	70	366	81	374	63	378	59

区分	第16回		第17回		第18回		第19回		第20回		第21回		第22回		第23回		第24回		第25回		第26回		第27回		第28回		第29回		第30回	
	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答
作家	195	20	194	16	183	20	185	17	186	14	188	15	184	17	174	14	178	14	183	14	189	20	146	18	144	18	142	19	141	17
文芸評論家	50	9	48	12	47	11	48	7	47	7	45	4	44	10	44	11	53	6	56	7	63	9	61	11	60	13	59	10	58	11
選考委員等	10	0	10	0	11	3	12	1	12	2	12	1	13	1	12	3	12	2	12	2	11	1	12	1	11	1	12	2	11	1
出版社	108	28	106	26	107	24	108	28	107	30	103	36	105	38	103	32	104	35	97	39	95	40	87	31	88	34	91	37	92	40
新聞社	45	3	44	1	44	3	44	1	44	1	44	1	44	4	44	3	44	2	44	1	44	3	53	2	53	0	53	4	53	2
書店・図書館・サークル	15	3	16	2	16	2	16	2	73	2	71	2	70	3	69	3	67	3	66	2	67	3	66	3	66	4	63	6	59	3
市民推薦人	5	5	3	3	3	3	5	5	5	5	6	6	5	5	8	7	5	5	4	5	3	3	4	4	7	7	7	6	5	5
合計	428	68	421	60	411	66	418	61	474	61	469	65	465	78	454	73	463	67	462	70	472	79	429	70	429	77	427	84	419	79

区分	第31回		第32回		第33回	
	発送	回答	発送	回答	発送	回答
作家	150	18	156	14	152	13
文芸評論家	56	15	56	15	53	18
選考委員等	11	1	10	0	10	0
出版社	92	30	93	33	94	40
新聞社	53	3	53	1	53	4
書店・図書館・サークル	59	2	58	2	58	3
市民推薦人	2	1	-	8	-	1
合計	423	70	426	73	420	79



第33回紫式部文学賞・紫式部市民文化賞  
受賞作品発表

《紫式部市民文化賞 資料》

令和5年10月5日(木)

宇治市・宇治市教育委員会

第33回紫式部市民文化賞  
受賞作品

随筆『<sup>うじ</sup>宇治でのよしなしごと』

著者：片桐 望 (かたぎり のぞむ)

新作

## 著者略歴

生年月日：1945年7月14日

現住所：京都府宇治市

趣味：卓球、街歩き（ウォーキング、自転車）

### 1. 職歴

2011- 東禾日語中心（台中） 日本語上級者コース担当（非常勤）

2008-2011 独立行政法人 物質・材料研究機構 特別研究員（非常勤）

2005 -2008 横浜国立大学 産学連携コーディネータ（産学連携）

2002-2005 中央青山監査法人 エコビラン事業部長（材料・環境関連コンサル）

2000-2002 PWC-EcoBilan ジャパン株式会社 社長（材料・環境関連コンサル）

1993-2000 神鋼リサーチ(株) 首席研究員（材料と環境関連の技術調査）

1972-1992 (株)神戸製鋼所 技術開発本部 研究員/主任研究員（製鋼研究、テーマ企画）

### 2. 教育

1972：東京大学 工学部 博士課程中退

1971：東京大学 工学部 修士課程修了

1969：東京大学 工学部 冶金学科卒業

### 3. 著書

1) ナツメ社 図解雑学「金属の科学」、徳田昌則、山田勝利、片桐 望(2005)

2) ナツメ社 構造、状態、磁性、資源からわかる「金属の科学」、徳田昌則総監修、岡本篤樹、津田哲明、片桐 望著(2012)

## 作品紹介と講評

選考委員 坪内 稔典

作者は2019年に宇治へ移住した。以来、関心の向くままに歩き、写真を撮り、インターネットで調べ、その感想をパソコンで書いた。そんなにして出来上がった随筆集だが、足とインターネットがさくさくと快く働いている。尹東柱（ユンドンジュ）の碑や山本宣治の墓、宇治の晩秋風景、橋姫神社、ユニチカ、ウトロ、宇治の地蔵と  
いうように足はいろんな方向にむく。その気ままさがこの随筆集に多様さと楽しさをもたらしている。傑作は自宅の2階の窓から撮ったユニチカ宇治工場の煙かも。おなかの出たおじさん、頭に弟を乗せて西を向く少年、東の空を見上げる少女など、煙のようすが実に楽しい。作者の日々の楽しさもうかがえる、まさに一市民の文化活動がこの随筆集だ。

## 受賞の言葉

片桐 望

この度は私の作品「宇治でのよしなしごと」が紫式部文化賞に選ばれました。応募した時は、うまくいって佳作ぐらいに引っかければいいのかと思っていましたが、思いもかけずトップ当選という知らせで、びっくりしてしまいました。

この賞は、宇治市が毎年市民の作品を対象に贈ってきたもので、極めてローカルな賞ですが、賞の名前にかの高名な紫式部の名前が冠されています。そのうえ「よしなしごと」という言葉は、これまた高名な兼好法師から頂いたもので、今回の受賞を機会に、両巨頭がわが駄文を見て「なんじゃこれは!？」とお怒りになるのではないかと、気にはなります。とはいうものの、私としてはこの受賞を率直に喜んでおります。

私は、(2011年12月から2019年6月にかけて)台湾に移住していたころは「台湾通信」という名で、そのあと宇治に帰国してからは「宇治便り」→「宇治でのよしなしごと」といった名で、暇に任せて駄文を書いては旧知の友人諸氏に発信しておりました。今回の受賞作品は、この宇治から発信した部分にほんの少し手を入れて全体の形を整えたものです。今や「よしなしごと」のネタもほぼ尽きたかといったところですが、この受賞を機に、次の方向性を探ることができればいいかと思っています。

第33回紫式部市民文化賞  
受賞作品

研究『クイズで紡ぐ宇治の  
今昔400問』

著者：岡田 一敏 (おかだ かずとし)

新作



## 著者略歴

1949年3月5日 広島県呉市生まれ

1972年3月 広島大学文学部 卒業

4月 (株) 日本旅行 入社

2008年3月 (株) 日本旅行 定年退職

※山口大学・広島経済大学・広島市立高校 非常勤講師 (旅行業)

2013年4月 宇治市へ転居

2014年11月 宇治市地域公共交通会議委員

2019年3月 宇治鳳凰大学 卒業

2022年9月 宇治市高齢者アカデミー 卒業

## 作品紹介と講評

選考委員 藤井 直

本作品は、これまでの応募作品には無い、クイズ形式という斬新で画期的な企画です。市民生活や歴史、文化、お茶、源氏物語等々、宇治にまつわる多種多様な事柄を網羅しており、多くの市民がクイズにチャレンジすることで、宇治について興味・関心を高めながら幅広い教養を身に付けることができます。身近な問題から超難問まで難易度にも適度な幅があり、参考文献も明記した上でのクイズ研究の成果として、質の高い作品になっています。本賞の趣旨である、市民文化の向上に資するものとして相応しい作品であり、将来的には、全国各地で実施されている「ご当地検定」の宇治市版のような取組に発展することを期待したいと思います。

## 受賞の言葉

岡田 一敏

平成25年（2013）4月、広島から娘夫婦と孫二人の住む宇治市へ引っ越してきました。宇治川河畔の散歩や「平等院」「宇治上神社」「興聖寺」「萬福寺」等の訪問、「茶摘み体験」等であつという間に1年が過ぎました。その後、「宇治鳳凰大学」や「宇治市高齢者アカデミー」に入学し、色々なことを勉強させて頂きました。そんな折、「第33回紫式部市民文化賞」の応募用紙のパンフレットが目に残りました。以前「京都検定」を勉強したこともあり、3択のクイズ形式で宇治について紹介できればおもしろいかなと思いました。それからは毎朝色々な資料を参考に「クイズ作り」が日課となりました。今回の受賞を機にこれからも「クイズ作り」に挑戦し、もっともっと宇治のことを勉強したいと考えております。最後にこのような名誉ある賞を頂けたことに関係者各位に感謝とお礼を申し上げます。

第33回紫式部市民文化賞 奨励賞  
受賞作品

童話『<sup>かぜ</sup>風のクレヨン<sup>ごう</sup>15号』

著者：風のクレヨン（かぜのくれよん）

新作

## 著者略歴

- 1985年 YMC A「童話創作教室」で吉橋通夫先生の指導を受ける
- 1987年 同人誌として「YMC A童話創作教室作品集」を発売
- 1988年 「風のクレヨン2号」童話創作教室から引き続き宇治に活動場所を移す
- 1990年 「風のクレヨン3号」
- 1992年 「風のクレヨン4号」
- 1994年 「風のクレヨン5号」
- 1996年 「風のクレヨン6号」
- 1997年 「風のクレヨン7号」
- 1999年 「風のクレヨン8号」
- 2002年 「風のクレヨン9号」
- 2005年 「風のクレヨン10号」
- 2008年 「風のクレヨン11号」
- 2011年 「風のクレヨン12号」
- 2013年 「風のクレヨン13号」
- 2018年 「風のクレヨン14号」
- 2023年 「風のクレヨン15号」

新型コロナウイルス感染症の影響により、5年振りに出せた「風のクレヨン15号」が紫式部市民文化賞奨励賞を受賞出来たことは先生をはじめ会員全員への最高のご褒美となりました。

## 作品紹介と講評

選考委員 塩見 啓子

「風のクレヨン」は、バリエーション豊かな創作童話集である。もし人間語が喋れる猫がいたとしたら？ 歯医者さんのあの音から蜂の世界にワープしたら？ 動物が主役の島に一人暮らすことになったら？ など、想像を掻き立ててくれるファンタジー作品。苦しい目にあったり迷ったりしたとき、家族や友達をもたらしてくれる再生の物語。人工と自然とを問わず、美しいものと出会う感動を描いた作品。それぞれの個性が光っている。今号は15号で、過去にも力作を読ませてもらった。

余談になるがタイトルを見て、松本隆氏の歌詞「風のクレヨンがあれば街角に君を描くよ」（「君の名前を呼びたい」）を思い出した。一人で書くのもいいけど、街角で仲間と書いた方がきっと楽しい。奨励賞が追い風になるといいと思う。

## 受賞の言葉

風のクレヨン

このたびは第33回紫式部市民文化賞奨励賞を頂くことになりとても嬉しいです。

私たちは1985年にYMCA「童話創作教室」で出会い、その後1987年に同人誌「風のクレヨン」として生まれ変わりました。

創作教室の時から古橋通夫先生が辛抱強く、温かく見守ってくださったご指導のおかげで今日の良き日を迎えられたと思います。

追われる子育てから少しゆとりの出来た頃、作品と言うより作文的な文章を書いていたが、先生からの「休まず書き続けよう」、「必ず道は開ける」等の分かり易い言葉で励まされ、勇気づけられました。

何度も何度も書き直して、先生や仲間たちからも厳しい批評を貰いながらも、くじけずに立ち直り、仲間とこの席にいられることをとても誇りに思います。

ありがとうございました。

第33回紫式部市民文化賞 奨励賞  
受賞作品

じんせい こころゆた  
講演集『人生を心豊かに～  
さまざま たいけんたん  
様々な体験談からのメッセージ～』

著者：わいわいTRY塾（わいわいとらいじゅく）

既刊



## 著者略歴

わいわいTRY塾は宇治市生涯学習センター主催の生涯学習ボランティア養成講座の修了生が集まり、2002年6月に発足した。

当初は、宇治市民を対象に生涯学習の啓発を推進する活動として、「おしゃべりサロン」をメインに、宇治市生涯学習センター主催「宇治まなびんぐ」（2月）と「夏休み子どもフェア」（7月）に参画して地域社会の活性化に向けて活動したが、その後、「おしゃべりサロン」に活動を集中した。

「おしゃべりサロン」は、元気で心豊かな生活をエンジョイしている人々から様々なテーマで自らの体験談（生きざま）を聴くもので、聴き手には人生の様々な生き方に刺激を受けて生きる力に昇華して頂くことを願っている。

「おしゃべりサロン」は2002年8月にスタートし、2004年に公益財団法人あしたの日本を創る協会、各都道府県新生活運動等協議会などが主催の「ふるさとづくり賞・振興奨励賞」を受賞した。

2011年9月におしゃべりサロン100回記念「私と愛・源氏物語、心のコンサート」を約200名の市民参加のもと宇治市生涯学習センターで盛況裡に開催。

2014年5月に開催した木もれ日 Genji（現・京 Genji）による「私たちと源氏物語朗読劇～今よみがえるみやび世の愛の物語」は、世界的古典を新しいスタイルの創作朗読劇で表現され大変好評を博した。

2016年10月におしゃべりサロン150回記念として第一部「私といのち満開エッセンス」、第二部「オカリナと篠笛コンサート」を宇治市生涯学習センターで開

催し、この時も満席であった

2022年8月の第199回サロンが丁度20周年を迎えたので、20周年記念誌「人生を心豊かに～様々な体験談からのメッセージ」（おしゃべりサロンの歩みパートⅡ）を2022年12月に発刊した。

2023年3月に「おしゃべりサロン200回記念」を宇治市生涯学習センターで盛況裡に開催。この折にトルコ・シリア大地震義援金（一口1千円）を募集し、募金協力者に20周年記念誌を配布した結果、集まった義援金51,000円を宇治市役所を通じて寄付し社会貢献した。

・・・この200回記念をもって、わいわいTRY塾の活動を終了した。

## 作品紹介と講評

選考委員 藤井 直

本講演集は、10周年記念誌に続く2作目となるもので、設立以来20年に及ぶ200回開催の節目として、しかもこれを機に活動を終了する記念として発刊されました。その活動は、宇治市の「生涯学習ボランティア養成講座」修了者が集まり、「シニアの経験や知恵を地域社会に活かしたい」との思いを原点として、宇治の歴史や文化はもとより、自らの体験談や元気の出る話など多様なテーマを、多彩な講師陣によって長きにわたり回を重ね、参加者は延べ1万人を超えます。ボランティア精神に基づく、宇治市民のための文化芸術活動として大きな足跡を残され、奨励賞に相応しい作品として高く評価するものです。

## 受賞の言葉

わいわいTRY塾代表 中塚 能男

源氏物語に描かれている人物の色々な生き様から、生きる知恵のメッセージを読み解くことができないだろうか？

生涯学習の多くは「知識を学び、教養を高める」ことに留まっているが、近年の激変する社会の中で「生きる知恵を学び、生き抜く力を高める」ことに力点をおいた学びの場が大切になっている。

百人百色の生き物語があり、充実人生を歩んでいる人の体験談から参加者に元気生活のヒントを提供する。語り手は自らの半生や体験談の中で何を感じ、どう考えたかを話す一方、聴き手には、いろんな生き方に刺激を受けて一歩踏み出す力になればと願って、おしゃべりサロンを20年間、200回開催し累計約1.1万人の参加者に学びの場として全国的にもユニークな活動を続けてきた。謂わば「元気な生き方講演集」とも言える本誌が評価され、これまでの努力が報われた感じで、スタッフ一同大変喜んでいる。

20年間も続けてこれたのは、偏に発表者の協力と宇治市の生涯学習センターと男女共同参画支援センターの支援のお陰で改めて感謝したい。

第33回紫式部市民文化賞 ユース賞  
受賞作品

おとめ ゆううつ  
小説『乙女の憂鬱』

著者：稲田 知恵 (いなだ ちえ)

新作

## 著者略歴

1995年10月生まれ 城陽市出身

2017年 京都女子大学文学部国文学科 卒業

2018年 京都府立南陽高等学校勤務

2019年～現在 京都府立東宇治高等学校勤務

## 作品紹介と講評

選考委員 中川 成美

今回ユース賞に選ばれた「乙女の憂鬱」は、人間と動物の交歓を描いたほほえましいファンタジー作品です。車にひかれそうになった雌猫が、若い人間の男の子に助けられ一瞬のうちに恋に落ちます。この猫は野良猫であるらしく街を自由に闊歩します。商店街や町並み人も彼女にはとても親切ですから、彼女は卑屈に街の隅を歩く必要はありません。毎日のように男の子の姿を求めて、彼がフットサルをする公園や彼の家を訪れます。彼は会えば優しく頭をなでてくれます。しかし、唯一不満なのは、彼女の熱い恋心が伝わらないことです。なぜなら彼には「にゃあ」としか聞こえないからです。

小品ながら暖かい心へと誘ってくれる作品となっています。

## 受賞の言葉

稲田 知恵

この度は紫式部市民文化賞ユース賞に私の作品を選んでくださりありがとうございます。心より御礼申し上げます。

私は学生の頃から趣味で小説を書いており、それは働き始めてからも変わりませんでした。ペンを持って紙に向かい、心のままに世界を広げていくことは本当に楽しいことです。思うような文を書けず、せつかく書いたものを全てボツにすることもあります。ですがそれすらも楽しんでいます。

さて、私は小説を書くにあたって毎回自分でテーマを決めて書いています。今回の作品のテーマは「どんでん返し」。読み終わるとまた初めから読み返したくなるような物語を目指しました。謎解きのように、読み終わって、読み返して、そしてタイトル『乙女の憂鬱』の答え合わせをしてくださると嬉しいです。



## 《第33回 紫式部市民文化賞 募集要項》

### 1. 趣旨

「源氏物語」など数々の古典文学の舞台となった本市の文化的伝統の継承・発展を図り、市民文化の向上に資することを目的とします。

### 2. 主催

宇治市・宇治市教育委員会

### 3. 応募受付期間

令和5年4月3日（月）～5月31日（水）

※郵送の場合は当日消印有効（市役所窓口での受付は開庁時間に限りません）。

### 4. 作品のジャンル

小説（ライトノベルを含む）、戯曲、評論、随筆、紀行文、童話、詩及び歌句（20程度必要）等の文学作品並びに研究作品（文学、歴史、民俗等）。

### 5. 作品の要件

新作、または令和4年4月1日～令和5年3月31日までに刊行（※奥付の発行年月日による）された日本語の作品。

### 6. 作品の規格

①原稿作品または雑誌（綴じるか製本されたもの）もしくは単行本として印刷されたもの。

②原稿作品は、原則として400字詰め原稿用紙（A4）を使用してください。縦書き・横書きは問いません。パソコン・ワープロ原稿の場合、A4サイズの用紙に読みやすく印字してください。

### 7. 応募資格

①応募の時点で、市内に在住・在勤・在学している人または市内を拠点に活動するグループ。

②性別、自薦・他薦の別は問いません。

### 8. 応募方法

①応募作品を郵送、メール送信または直接持参してください。

②原稿作品は指定の表紙に必要事項を記載の上、ひもで綴じ、原稿には通し番号を付けてください。

③雑誌・単行本は、指定の表紙を添付の上、提出してください。雑誌等で該当する箇所が一部分である場合は、応募作品の箇所に見出し紙を貼ってください。

④メール送信による応募の場合は、件名を「紫式部市民文化賞応募作品送付」とし、作品と指定の表紙を添付してください。

⑤他薦による応募の場合は、推薦者の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記してください。

⑥応募作品は1人（1グループ）1点に限ります。

⑦応募に際しては、2部（コピー可）提出してください。事務局でのコピーは白黒コピーとなりますので、あらかじめご了承ください。コピー不可の場合は、8部提出してください。

### 9. 受賞作品及び賞

紫式部市民文化賞：2作品以内。正賞（クリスタル像）と副賞（図書カード3万円分）。

奨励賞（これまでの活動なども含め特に顕彰すべき作品）：2作品以内。副賞（図書カード5千円分）

ユース賞（作者が30歳未満で今後に期待する作品）：2作品以内。副賞（図書カード5千円分）

### 10. その他

①応募作品は返却しません。必要な人はコピーをとってください。

②市販されていない作品が受賞した場合、市民の皆さんに読んでいただくため受賞作品集にし、200部程度を実費頒布します。

#### 11. 選考委員（50音順・敬称略）

木股 知史（甲南大学名誉教授）、塩見 啓子（歌人）、坪内 稔典（俳人）、外山 敦子（愛知淑徳大学教授）、中川 成美（立命館大学名誉教授）、藤井 直（元京都府立高等学校長）山路 興造（元京都市歴史資料館長）

#### 12. 応募・問い合わせ先

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市文化スポーツ課 文化係

電話 0774-20-8724

E-mail [bunkasportska@city.uji.kyoto.jp](mailto:bunkasportska@city.uji.kyoto.jp)

## 《第33回紫式部市民文化賞募集結果》

全応募作品数 36件(個人31件、団体5件)

### ジャンル別

ジャンル	件数
小説	7
評論	1
随筆	4
童話	2
詩集	4
歌集	2
句集	3
研究	5
論文	0
翻訳	1
戯曲	2
紀行文	1
ノンフィクション	1
その他	3
合計	36

### 年齢別

年齢別	人数(男)	人数(女)	合計
10歳未満	0	0	0
10歳代	1	1	2
20歳代	1	1	2
30歳代	1	0	1
40歳代	0	0	0
50歳代	2	1	3
60歳代	4	3	7
70歳代	9	2	11
80歳代	3	2	5
90歳代	0	0	0
100歳以上	0	0	0
合計	21	10	31
平均年齢	65.0	61.3	63.2

### 住所別

住所	応募者数
池尾	0
伊勢田町	1
伊勢田町名木	0
宇治	8
大久保町	2
小倉町	2
折居台	0
五ヶ庄	2
木幡	4
志津川	0
白川	0
神明	0
炭山	0
寺山台	1
天神台	0
菟道	3
南陵町	1
西笠取	1
二尾	0
羽戸山	0
羽拍子町	0
東笠取	0
平尾台	0
開町	0
広野町	1
琵琶台	1
槇島町	1
明星町	1
安田町	0
六地蔵	0
京都市	0
城陽市	1
舞鶴市	0
八幡市	0
京田辺市	0
木津川市	0
長岡京市	0
精華町	0
久御山町	0
宇治田原町	0
大阪市	0
三島群	1
合計	31

市外

### 男女別

性別	人数
男	21
女	10
合計	31

### 団体応募

種別	件数
団体	5

種別	件数
既刊	14
新作	22
合計	36

## 《紫式部市民文化賞受賞作品一覧》

開催回	受賞作品	受賞者	選考委員特別賞	応募数
第1回	歌集「歌集 清明の季」	山本治子		114作品
	句集「句集 幡」	辻田 克巳		
第2回	小説「小説 山城国一揆」	東 義久		39 作品
	民俗誌「狛犬学事始 宇治市・南山城編」	小寺 慶昭		
第3回	紀行文「旅ゆけば愉し」	市嶋 絢		27 作品
	歴史研究「人麻呂渡しー律令からのメッセージ」	蓮沼 徳次郎		
第4回	小説「鉄の橋」	金丸 小代子	郷土研究「悠久の流れ 宇治川ー過去そして未来ー」	44 作品
	民話再話「宇治・山城の民話」	宇治民話の会	戯曲「時の音色」	
第5回	歴史研究「数奇と呼ぶ日本の文化革命ー利休、織部の死の裏にひそむ意外な史実ー」	児島 孝		37 作品
	小説「由仁葉は或る日」	美唄 清斗		
第6回	小説「乳母車」	笠沙 光子	随筆「京のたつみに住みなれて」	三木 暢子
			随筆「インカーネーション」	木下 猛
第7回	随筆「エッセイ 西行桜」	矢野 喜久男	文集「たんぽぽ文集15号」	42 作品
	句集「八十五才から九十才までの作品抄」	坂 五十雄	研究「私たちの「ふるさと教育」～地域と共に歩んできた2年間の実践～」	
第8回	小説「緑風館ラブソディ」	山下 裕美	抄訳「抄訳 源氏物語 ー～十三」	源氏のつどい
			研究・記録「ウトロー 置き去りにされた街」	地上げ反対！ウトロを守る会
第9回	聞き書き「くらしの中でみる女性ー京都府宇治市を中心にしてー」	岡本 カヨ子	句集「くりくま句会 合同句集」	くりくま句会
	紀行「インドネシア染織の旅」	長谷川 榮輔		
第10回	小説「有栖川」	笠井 心		52 作品
	詩集「太陽」	北村 陽子		
第11回	小説「痴呆」	むら山 豊	記念誌「伊勢田史友会三十年誌」	伊勢田史友会
	小説「はるかなる山河」	竹岡 富仁子		
第12回	小説「帰命頂礼榎嶋縁起」	築紫 巧	句集「参百号記念洛南探勝誌句集」	洛南探勝句会
	詩評論「現代詩への旅立ち」	神崎 崇		
第13回	小説「夢想窟」	久保田 稔	評論「島崎藤村の姪こま子の新生」	49 作品
	詩集「空とぶほうほう」	岩本 良子	郷土誌「菟道のあゆみ」	
第14回	小説「常世の樹」	岡本 晶	小説「背光(せなびかり)」	57 作品
	自叙伝「てん茶に生きる」	寺川 俊男	句集「夫婦善哉」	

開催回	受賞作品	受賞者	選考委員特別賞	応募数	
第15回	小説「パウリスタの風」	本庄 豊	郷土史「やさしい宇治の歴史」	岡本 望	55 作品
			句集「連合喜老会・俳句会『二十五年史』」		
第16回	句集「方丈記」	加藤 彦次郎	随筆「むらさきの会10周年記念誌」	むらさきの会	65 作品
	小説「三木パウロ・安土セミナリオ第一期生」	山崎 泰正			
第17回	ことばの研究「宇治のことば 調査報告 総合編」	宇治のことばを探す会			50 作品
	詩集「撫順」	山本 万里			
第18回	歌集「伊勢田の森かげ」	高橋 敬子	戯曲「茶釜狸、秋の夜長に大和屋善四郎に遭ふこと」	森嶋 也砂子	52 作品
			随筆「波濤に立つ」	上田 詠子	
第19回	小説「列車の音色」	木澤 瑞季	ガイドブック「宇治の散歩道－第三集・西宇治地域編－」	(財)宇治市文化財愛護協会	59 作品
	随筆「折々の人間学－京都で考えたこと」	川本 卓史			
第20回	小説「夏は来たりぬ－ウィーンの森の物語－」	隅垣 健	漢詩集「漢詩集 故郷宇治に詠う」	清水 太門	60 作品
	小説「猫と暮らせば」	岡下 恭子			
第21回	随筆「瀬祭のごとく」	福井 記久子	小説「別涙」	新 割成	58 作品
			小説「Flyer」	古田 正樹	
第22回	歴史研究「抹茶の研究」	桑原 秀樹	郷土史研究「墓誌で探る旧伊勢田村の戦争」	岩田 行平	62 作品
	小説「オーパーツをつなぐ」	譲原 萌子			
第23回	句集「百寿」	水田 寿子	歌文集「夫婦でつづる歌文集 完治宣言」	奥田 義人 奥田 君子	62 作品
第24回	小説「雪明かり」	横道 しげ子	随筆「漢字－文字の旅」	鮎風 遊	50 作品
	歌集「花のことづて」	沢本 彰子			
第25回	ノンフィクション「太八の青春と死－戦時下の昭和史断章」	若原 憲和	句集「宇治川柳会 創立五周年記念合同句集 番茶」	宇治川柳会	43 作品
	小説「ひなの川、町を流れて－生家への鎮魂歌」	みぎわ せり			
第26回	随筆「つれづれの記」	小野 利子	民話「この子らのために2 宇治山城で聞いた戦争の話」	宇治民話の会	50 作品
第27回	詩集「キハーダ」	北村 真			52 作品
	句集「青の先」	中井 保江			
第28回	歌集「木曾坊道」	長谷川 昭子	小説「学童疎開物語『太郎は父のふるさとへ』」	中川 晃	52 作品

開催回	受賞作品	受賞者	選考委員特別賞		応募数
第29回	小説「よそになる身の秀能物語」	早北 千枝	随筆「三十周年記念 ゆりの集い 第三十号」	文章サークル「ゆりの集い」	34 作品
	研究「ダニヤ経」	吉水 秀樹	ノンフィクション「美しいお茶の魂」	山城 富広	
第30回	句集「お福分け」	武智 由紀子	小説「りせっと」	さくら さち	49 作品
			歌集「合同歌集 茶の花 第十四号」	宇治茶の花短歌会	
第31回	その他(回顧録)「屋根裏から出囃子が聞こえるく地域寄席奮闘記」	上田 邦夫	小説「ソクのいた日」	代々 百々	40 作品
			紀行文「頼政道を歩く」	野田 公彦	
開催回	受賞作品	受賞者	奨励賞・ユース賞 (奨…奨励賞、ユ…ユース賞)		応募数
第32回	歌集「葉の上の露」	鳥本 純平	奨 詩集「詩集 ちゅうぶらりん」	今村 貴久子	42 作品
			ユ 小説「思い思い描く、たった一つの青く光る一瞬の煌めきを」	小嶋 彩加	
第33回	随筆「宇治でのよしなしごと」	片桐 望	奨 童話「風のクレヨン15号」	風のクレヨン	36 作品
	研究「クイズで紡ぐ宇治の今昔400問」	岡田 一敏	ユ 小説「乙女の憂鬱」	稲田 知恵	